

グルジア紛争が国際社会に及ぼす影響

ロシア担当・畔蒜泰助

1. グルジア軍の南オセチアへの軍事侵攻を巡る米露の意見の相違

駐露アメリカ大使の言い分

- ・我々は必死に止めたが、サーカシビリが言うことを聞かなかった。
- ・ロシア軍による南オセチアにいる平和維持部隊を守る為の攻撃は十分根拠あり。

vs

プーチン首相の言い分

- ・アメリカは、グルジア軍に武器と軍事訓練を供与することで軍事侵攻を助長した。
- ・米大統領選挙での特定の候補の支持率アップの為に仕掛けた。
- ・アメリカ国籍の人間が戦闘の場にいた。つまり、アメリカ人も南オセチアへの軍事侵攻に参加していた。

2. サーカシビリ大統領のワシントンへのコミュニケーション・ルートは二重構造

- ・現実主義派のライス国務長官率いる国務省ルート
- ・ランディー・シェーネマンを介したネオコン・ルート
- ・英 FT 紙が示唆する米国の関与

3. 9・11 ユーラシアを巡る米露の協調と対立の構図

- ・中東地域を主な舞台とした「対テロ」での米露協調
- ・欧州地域を主な部隊としたMD配備や NATO 拡大での米露対立

4. 米ブッシュ政権内における対ロシア政策をめぐる対立

- ・「対テロ」での米露共闘関係の維持を重視する現実主義者
- ・ロシアのユーラシアでの再台頭を警戒するネオコン派
- ・チャールズ・シュマー米上院議員が提唱する米露間の戦略ディール

5. アメリカは何故、グルジア・ウクライナ NATO 加盟を推進するのか？

- ・黒海艦隊基地問題
- ・シリアの海軍補給基地と中東和平問題
- ・トルコが提唱する「コーカサスの安定と反映のプラットフォーム」構想
- ・フランシス・フクヤマの敗北宣言